３．授業実践報告
（2）高等部普通課程　保健体育科

案内役：フクロウさん

令和4年度
～授業づくり研修～

高等部　普通課程
体育
（トライチーム）

単元：『球技』
題材：「ボッチャ」

【材 料】

□学習指導要領
□各教科各段階における各観点の趣旨
□シラバス（観点別評価規準）
□個別の指導計画 長期・前期目標
（観点別）
□単元目標（観点別）
□児童生徒の実態
□教材研究・指導の工夫
□個別の指導計画 前期評価（観点別）

これらを
組み合わせて
実践を行いました！

授業実践者
教員経験年数
2年

学習グループ
高等部1～3年
（トライ生徒11名）

グループの生徒の実態

全体指示を聞いて活動できる生徒が多い。
自分の意思を伝える時には教員が間に入りながら、
確認したり代弁したりするなどの支援が必要。

これまでに、ベースボール型・ネット型、ゴール型を
経験し、様々な体の動かし方を学習してきている。
ボッチャにも取り組んだことがある。

3．授業実践報告

（2）高等部普通課程　保健体育科

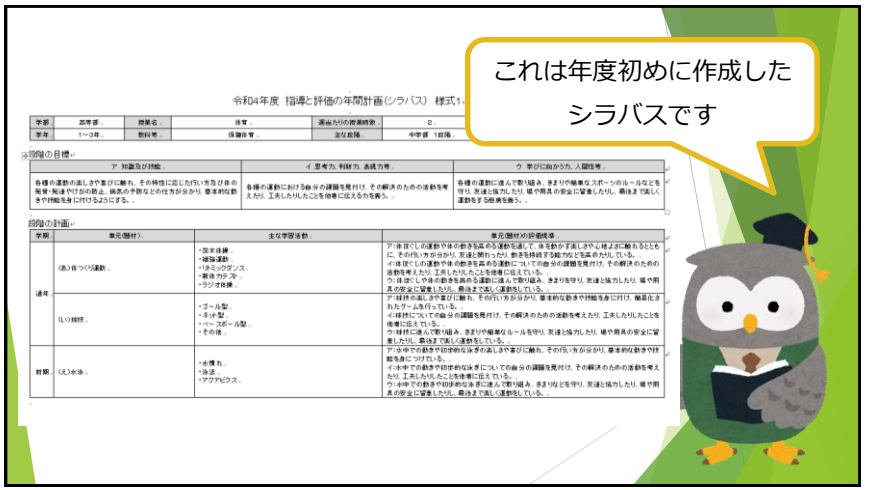
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）
第4章　第5節　第7 体育科　イ内容より

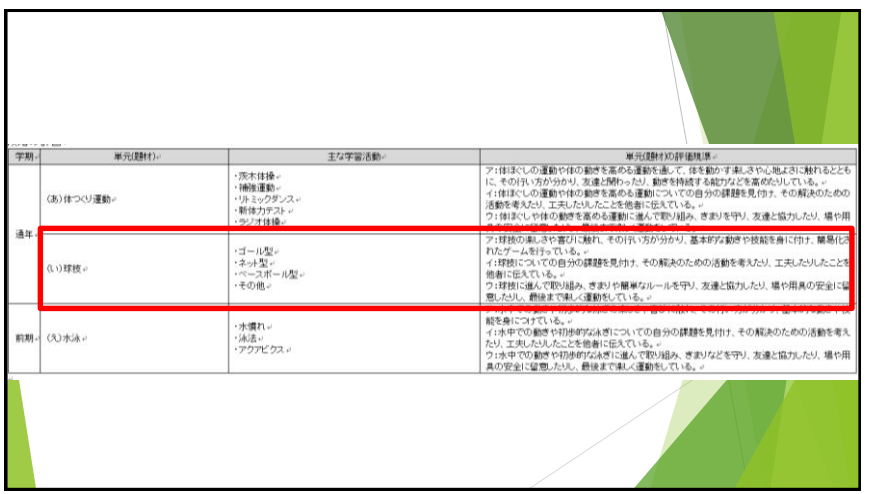
E　球技

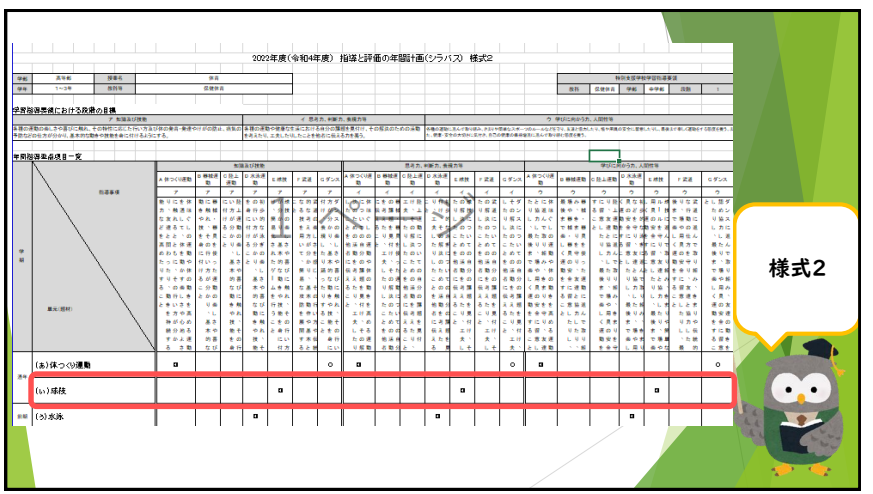
〔知識及び技能〕
●球技の楽しさや喜びに触れ，その行い方が分かり，基本的な動きや技能を身に付け，簡易化されたゲームを行うこと。

〔思考力、判断力、表現力等〕
●球技についての自分の課題を見付け，その解決のための活動を考えたり，工夫したりしたことを他者に伝えること。

〔学びに向かう力、人間性等〕
●球技に進んで取り組み，きまりや簡単なルールを守り，友達と協力したり，場や用具の安全に留意したりし，最後まで楽しく運動をすること。







３．授業実践報告
（2）高等部普通課程　保健体育科

題材にボッチャを選んだ理由

①これまでに球技のベースボール型・ネット型・ゴール型の様々な競技を経験し、基本的な体の動かし方を身に付けている。

②どの生徒もボッチャに一度は取り組んだことがあり、親しみのある競技になっている。

③ルールがシンプルで勝敗が分かりやすいことで、生徒は自分に合った目標設定がしやすく、活動することの楽しさや喜びにつながるのでは。

ボッチャを通して

「運動やスポーツは楽しい！」と思えることで生涯スポーツとの出会いのきっかけになってほしい。

単元の目標

知識技能　ジャックボールを狙ったり作戦を意識したりして投げることができる。

思考判断表現　チームで投げる順番や作戦を考えたり、自分の考えたことや気持ちを伝えたりできる。

学びに向かう力人間性　ルールを理解し、チームでボッチャの楽しさを分かち合うことができる。

単元の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①ジャックボールや目標物の近くを狙って投げている。 ②「得点するための作戦」または「守るための作戦」などの作戦を意識している。	①チームメンバーとの作戦会議で意見交換に参加している。 ②どうすれば得点をとれるのか考えている。 ③どうすれば得点できるのか、相手チームが得点することを防ぐことができるか考えている。	①ゲームを楽しもうとしている。 ②チームメイトと協力して活動に参加している。

単元計画

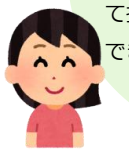
次	時	学習内容	学習活動	評価規準
一	1	・オリエンテーション ・やってみよう！	○ボッチャとは ・基本的なルールを知る。 ○投げてみよう！ ・自分に合った投げ方を見つける。（上・下投げ、両手投げ、ランプ）	A①（行動観察） B①（行動観察） C①（行動観察）
	2 3 4	・各チーム練習 ・ゲーム形式	○各チーム練習 ・ジャックボールを狙う。	A①(行動観察) B①(行動観察) C①(行動観察)
	5 6 7	・ミニゲーム大会	○スーパーボッチャ ○ボッチャでBINGOなど ・狙ったところに投げる。 ・ルールを理解する。	A①(行動観察) B①②(行動観察) C①②(行動観察)
二	8 9	・実際のルールでゲームをする	○ルールを試合の中で学ぶ。 ○作戦の話し合いを行う。	B②(記録・発表) C②(行動観察)
	１０ １１ １２	・リーグ戦	○各チームに分かれてゲーム ○投げ方の工夫、得点の方法を発表できる。	B③(記録・発表) C③(行動観察)

3．授業実践報告
（2）高等部普通課程　保健体育科

トライグループ　体育

対象生徒の実態

相手の立場や状況を考えて会話ややり取りをすることができる。ボッチャにおいて投げ方を工夫することができる。



ことばによる意思表示、指示理解ができるが、慣れない人との関わりは苦手。ボッチャは力強く投げることができるが、狙うことは苦手。

授業づくりをする中で悩んだこと

観点別の評価方法

A 知識・技能
①ジャックボールや目標物の近くを狙って投げている。

力加減をすること

目標物を狙うこと

トライグループの生徒の実態が幅広い

どうしよう・・・

指導主事からのアドバイス

評価規準（のりじゅん）に対しての評価基準（もとじゅん）を立ててみてはどうか？

評価基準（もとじゅん）って何？規準と基準は何が違うのか？いまいちピンとこず、プチパニックでした。

評価規準（のりじゅん）

・到達目標（観点・内容）

評価基準（もとじゅん）

・到達目標に対してどの程度到達できたかを判断する目安。

３．授業実践報告
（2）高等部普通課程　保健体育科

例

逆上がりができるようになる。（評価規準）

（評価基準）
・逆上がりができる。
・補助版を使うことで逆上がりができる。
・逆上がりができない。

評価基準（もとじゅん）を設定することで・・・

評価するポイントがわかり、目標に対して
どれだけ達成できているかがわかりやすい！！

よりきめ細やかな
評価が可能に！！

授業の中でサブの
先生の動きが明確
に！！

生徒たちのモチベーションもＵＰ！！
運動をすることの楽しさや喜びに！！

トライグループをさらにグループ化してより
具体的な目標や評価基準を設定しよう!!

まずは最初に戻って生徒一人ひとりの
実態把握を!!

移動方法
生活面
運動面
コミュニケーション面
配慮事項

チェックリストを参考に
取り組んだ。

トライグループを細分化

3．授業実践報告
（2）高等部普通課程　保健体育科

実態把握し、トライグループの中でさらにグループを3つに分けました。

生徒	移動方法	実態（生活）	実態（本時）	コミュニケーション	本時の目標	支援・手立て	関連する自立活動	活動グループ	配慮事項
A	・車いす（アシストガ） ・歩行（要見守り）	・自立生活に取り組み、少しずつ積極的な面が見られてきている	・力加減、投げ方を工夫できる。・作戦を考えて実行することができる。	相手の立場や状況・状態等を考えながら、会話やり取りをすることができる。	・考えた作戦を伝えたり投げたりできる。	・記録係に記録をさせることで作戦を整理し伝えやすくする。	○コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション	1	心拍注意
B	・車いす ・電動	学校生活に慣れ、活動や他者とのかかわりを楽しんでいる。	・ラインを使用して、角度・方向を教員と相談し、押しとすることができる。	・話している内容は理解できる。分からない単語は少しずつ覚えて言葉ってしまう。	・教員と相談しながら、作戦に適した方向や位置を定めることができる。	・、意見を共有できるように場面に応じて言葉かけを行う。	○コミュニケーション ・コミュニケーション手段の選択と活用	2	iPadを活用して会話
C	・歩行（要見守り）	運動することが好きで、野球、ボッチャが特に好き。	ボッチャ同好会での活動をしており、投球・作戦に意識を持って活動できる。	大勢の中で記録が抜けることがあり、正しい日本語になりないことが多い。	・考えた作戦を伝えたり投げたりできる。	・記録係に記録をさせることで作戦を整理し伝えやすくする。	○コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション	1	iPadを活用して会話
D	・車いす ・歩行	・できないことがあるときにアピールはできるが、助けを求めることは難しい。	・積極的にリーダーシップを取ろうとする。ボッチャは個人戦が長くなってきた。	・日常会話は可能にできる。・場面だけで話すことは再考ではない。	・考えた作戦を伝えたり投げたりできる。	・記録係に記録をさせることで作戦を整理し伝えやすくする。	○コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション	1	
E	・歩行（要見守り）	・自分から挨拶ができる。・人と関わること、話すことが好き。	・下投げでと上手に投げることができる。力加減は難しい。	・話す言葉が不明瞭。・言っている話に理解ついていけないことがある。	・力加減を工夫して、狙いたいところにボールを投げることができる。	・ボールの行方をイメージしやすいように毎本を見せる。	○身体の動き ・目的自然に必要な基本動作	2	
F	・車いす ・歩行（要見守り）	慣れない人に関わりづらい時もある。興味あるところには率先して取り組む。	・力強く投げることができる。 ・狙うことは難しい。	・ことばによる意思表示、指示理解ができる。	・力加減を工夫して、狙いたいところにボールを投げることができる。	・ボールの行方をイメージしやすいように毎本を見せる	○身体の動き ・体幹に必要な動作と同身心活用	2	車いすの転元注意
G	・歩行（要見守り）	物の置き忘れ、なくしものが多い。言われた内容で行動ができる。	・力加減、投げ方を工夫することができる。・作戦を考えて実行することができる。	言葉でのコミュニケーションが可能であり、場面に応じた言葉遣いができる。	・考えた作戦を伝えたり投げたりできる。	・記録係に記録をさせることで作戦を整理し伝えやすくする。	○コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション	1	視界注意

評価基準

学習グループの評価規準【思・判・表】		学習グループ内の評価基準
1・作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えようとしている。	A	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えることができる。
	B	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えようとしている。
	C	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えることは難しい。
2・ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしている。	A	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えることができた。
	B	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしている。
	C	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えることは難しい。
3・ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりしようとしている。	A	ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりすることができる。
	B	ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりしようとしている。
	C	ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりすることは難しい。
学習グループの評価規準【学】		**学習グループ内の評価基準**
1・喜びは「次の試合も○○」、悔しさは「次の試合では○○」とチームメイトと共有しようとしている。	A	喜びは「次の試合も○○」、悔しさは「次の試合では○○」とチームメイトと共有できている。
	B	喜びは「次の試合も○○」、悔しさは「次の試合では○○」とチームメイトと共有しようとしている。
	C	喜びは「次の試合も○○」、悔しさは「次の試合では○○」とチームメイトと共有することが難しい。
2・チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをしようとしている。	A	チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどができている。
	B	チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをしようとしている。
	C	チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをすることは難しい。
3・チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えようとしている。	A	チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えることができている。
	B	チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えようとしている。
	C	チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えることは難しい。

生徒Aさん

学習グループの評価規準【思・判・表】		学習グループ内の評価基準
1・作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えようとしている。	A	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えることができる。
	B	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えようとしている。
	C	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えることは難しい。

作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えることができるようになった。【思考・判断・表現】

達成することで

知識技能も上達し、力加減をして目標物に投げられるようになった。

生徒B

学習グループの評価規準【思・判・表】		学習グループ内の評価基準
2・ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしている。	A	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えることができた。
	B	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしている。
	C	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えることは難しい。

ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしている。【思考・判断・表現】

達成することで

知識技能も上達し、目標物を狙って投げられるようになった。

3．授業実践報告
（2）高等部普通課程　保健体育科

生徒A 個別の指導計画（観点別）

長期目標	・さまざまな運動の基本的な動きや技能を身に付ける。（知・技） ・運動の特性に応じて自分なりのスキルアップの方法を考えることができる。（思・判・表） ・きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、仲間と協力して取り組む。（学）
前期目標	①定められた目標の近くにボールが止まるように力加減を調整して投げることができる。（知・技） ②どうすれば得点をとれるのか考えることができている。（思・判・表） ③ゲームを楽しもうとしている。（学）

学習内容	支援方法・配慮	具体的な手立てと評価
・茨木体操 ・ストレッチ ・ランニング ・集団演技 ・球技 ・水泳	①イラストや映像、目標物を目立つものにして、イメージを作りやすくする。 ②仲間と相談・振り返りをする場面をつくる。 ③ルールを3つ程度に分け、わかりやすくする。	①目標であるジャックボールとの距離感を少しずつつかみ、力加減を調整した投球をすることができました。（知・技） ②作戦ボードを活用してボールの位置を整理することができました。それを基にチームメイトへおすすめのポイントを伝えることができました。（思・判・表） ③喜びは「次の試合も得点する！」、悔しさは「次の試合では得点されないようにしたい」とチームメイトや教員と思いを共有することができました。（学）

シラバス
年間目標より

設定した評価基準から抜粋

生徒B 個別の指導計画（観点別）

長期目標	・さまざまな運動の基本的な動きや技能を身に付ける。（知・技） ・運動の特性に応じて自分なりのスキルアップの方法を考えることができる。（思・判・表） ・きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、仲間と協力して取り組む。（学）
前期目標	①定められた目標物の近くを狙って、ボールを投げることができる。（知・技） ②どうすれば得点をとれるのか考えることができている。（思・判・表） ③ゲームを楽しもうとしている。（学）

学習内容	支援方法・配慮	具体的な手立てと評価
・茨木体操 ・ストレッチ ・ランニング ・集団演技 ・球技 ・水泳	①イラストや映像、目標物を目立つものにして、イメージを作りやすくする。 ②仲間と相談・振り返りをする場面をつくる。 ③ルールを3つ程度に分け、わかりやすくする。	①目標であるジャックボールの方向にボールを投げることができ、近くにつけることができました。（知・技） ②ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとすることができました。（思・判・表） ③チームメイトへの「がんばれ！」「ナイスー！」などのような前向きな言葉と共に拍手で称えることができました。（学）

おしまい

【資料１】シラバス様式１

令和4年度　指導と評価の年間計画（シラバス）　様式1

学部	高等部	授業名	体育	週当たりの授業時数	2	授業担当者	
学年	1～3年	教科等	保健体育	主な段階	中学部　1段階	採択教科書	無

段階の目標

ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等	ウ　学びに向かう力、人間性等
各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	各種の運動における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。

段階の計画

学期	単元(題材)	主な学習活動	単元(題材)の評価規準
通年	（あ）体つくり運動	・茨木体操 ・補強運動 ・リトミックダンス ・新体力テスト ・ラジオ体操	ア：体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方が分かり、友達と関わったり、動きを持続する能力などを高めたりしている。 イ：体ほぐしの運動や体の動きを高める運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。 ウ：体ほぐしや体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をしている。
	（い）球技	・ゴール型 ・ネット型 ・ベースボール型 ・その他	ア：球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行っている。 イ：球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。 ウ：球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をしている。
前期	（え）水泳	・水慣れ ・泳法 ・アクアビクス	ア：水中での動きや初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身につけている。 イ：水中での動きや初歩的な泳ぎについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えている。 ウ：水中での動きや初歩的な泳ぎに進んで取り組み、きまりなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をしている。

【資料２】　シラバス様式２（保健体育・中・２段階）

2022年度（令和4年度） 指導と評価の年間計画（シラバス） 様式2

学部	高等部	授業名	体育
学年	1～3年	教科等	保健体育

特別支援学校学習指導要領					
教科	保健体育	学部	中学部	段階	

学習指導要領における段階の目標

ア　知識及び技能	イ　思考力、判断力、表現力等	ウ　学びに向かう力、人間性等
各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。

年間指導重点項目一覧

学期	指導事項 / 単元（題材）	知識及び技能							思考力、判断力、表現力等							学びに向かう力、人間性等						
		A 体つくり運動	B 器械運動	C 陸上運動	D 水泳運動	E 球技	F 武道	G ダンス	A 体つくり運動	B 器械運動	C 陸上運動	D 水泳運動	E 球技	F 武道	G ダンス	A 体つくり運動	B 器械運動	C 陸上運動	D 水泳運動	E 球技	F 武道	G ダンス
		ア	ア	ア	ア	ア	ア	ア	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	ウ
		体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、体を動かす楽しさや心地よさに触れるとともに、その行い方が分かり、友達と関わった動きを持続する能力などを高めたりすること	器械・器具を使った運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技を身に付けること	陸上運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること	初歩的な泳ぎの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けること	球技の楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、簡易化されたゲームを行うこと	武道の楽しさを感じ、その行い方や伝統的な考え方が分かり、基本動作や基本となる技を用いて、簡易な攻防を展開すること	ダンスの楽しさや喜びに触れ、その行い方が分かり、基本的な動きや技能を身に付け、表現したり踊ったりすること	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動を通して、自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること	器械・器具を使った運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること	陸上運動についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること	初歩的な泳ぎについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること	球技についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること	武道についての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること	ダンスについての自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝えること	体ほぐしの運動や体の動きを高める運動に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること	器械・器具を使った運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や器械・器具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること	陸上運動に進んで取り組み、きまりを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること	初歩的な泳ぎに進んで取り組み、きまりなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること	球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること	武道に進んで取り組み、きまりや伝統的な行動の仕方を守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること	ダンスに進んで取り組み、友達の動きを認め協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること
通年	（あ）体つくり運動	◎						○	◎						○	◎						○
通年	（い）球技					◎							◎							◎		
前期	（う）水泳				◎							◎							◎			

【資料３】学習指導案

「保健体育科」（体育）学習指導案

１．日時　令和４年　10 月６日（木）　第５，６時限（１３:２０～１４:３０）
２．場所　体育館
３．学部・学年・組　高等部・普通課程トライ　１年生４名　２年生４名　３年生３名　計１１名
４．単元（題材）名　「ボッチャ」
５．単元（題材）目標
・ジャックボールを狙ったり作戦を意識したりして投げることができる。　【知・技】
・チームで投げる順番や作戦を考えたり、自分の考えたことや気持ちを伝えたりできる。　【思・判・表】
・ルールを理解し、チームでボッチャの楽しさを分かち合うことができる。　【学】

６．生徒観

本授業の対象者は肢体不自由に併せて知的障がいがあり、独歩や介助歩行、または車いすを使用して移動する生徒である。1 年生 4 名、2 年生 4 名、3 年生 3 名が在籍している。

車いすで活動している生徒は、上肢を自由に動かしてボールを上下から投げることができる生徒、車いすの横幅から身を乗り出して車輪の横から勢いよく投げることができる生徒、ランプの方向や角度を教員と相談し設置されたボールを押し出すことができる生徒と実態は様々である。この授業の生徒は皆、T1 からの全体指示や個別の指示を聞いたり、必要に応じて側にいる教員とポイントを整理したり自ら支援を求めたりすることで準備・片付け・給水などができる。コミュニケーションに関しては、会話が好きな生徒が多いが、主に教員とのやりとりを楽しむことが多い。中には自ら生徒同士の会話を楽しむ生徒も在籍しており、その生徒もしくは教員が間に入りながらそれぞれの意思を確認、代弁することで互いに思いを伝え合うことができる。

このグループはこれまでに、ベースボール型・ネット型・ゴール型の各競技を経験している。ボール操作に関しては攻防のために片手や両手で狙って投げたり転がしたりすることができ、簡単なルールを守りながらエリアまで運ぶ、スティックで打つ、ボールをたたく、はじくこともできる。「スペースやポイントを狙う」「強弱のコントロールをつける」ことなどを意識しながら活動することができている。どの生徒もこれまでに「ボッチャ」には取り組んだことがあり、少数ではあるが校外で行われている交流や大会に参加した経験がある生徒もいる。

７．教材観

ボッチャは重度脳性麻痺の方や同程度の四肢重度機能障がいの方のためにヨーロッパで考案されたスポーツでパラリンピックの正式種目である。障がいに合わせて参加するクラスが分けられているのでどの競技者もゲームを楽しむことができる。2016 年からボッチャ甲子園（全国ボッチャ選抜甲子園大会）

が開催されたことで支援学校での認知度が上がりはじめ、2021 年の東京オリンピックでのメダル獲得が決め手となり更なる注目を浴びている。ルールはジャックボールと呼ばれる白いボールを狙ってボールを投げるといったシンプルなものを軸に奥深い作戦が繰り広げられる。ルールのシンプルさ故に誰もが気軽にレクリエーションとして参加できる点も魅力であり、性別や年代、障がいに関係なく幅広く楽しまれている。

基本のルールである「ジャックボールを狙う」という点を目標とする段階から、「相手の得点を阻止するためのスペースに狙う」という発展した課題を目標とする段階などのように「狙うこと」は同じでも生徒の実態に応じて設定することができる。それに伴って、どの生徒も自分に合った作戦を組み立てやすいので「わたしはジャックボールを狙う！」「わたしは相手が得点できないようにコースを狙う！」と自信をもって考え、伝えることができるのではないかと考える。それぞれの生徒が自分自身に合った投げ方で頑張っている姿を見て、互いに励ましあったり、認め合ったりすることで仲間意識を少しずつ感じてほしい。その仲間意識が、チームで活動をすることの楽しさ・喜び・悔しさなどを感じるきっかけとしてほしい。本単元の経験を通してスポーツは楽しい！好きか嫌いなら好き！と思えることで、切っても切れないであろうボッチャとの、生涯スポーツとの出会いのきっかけとできるのでこの教材を選択した。

８．指導観

・ジャックボールを狙ったり作戦を意識したりして投げることができる。　【知・技】

生徒それぞれが、上投げ、下投げ、両手投げ、ランプの使用などの方法から自分に合った投げ方を見つけることができるように映像や実演で提示する。コーンやフープを設置することで狙う方向や場所を視認しやすくする。各チームがポイントを獲得する機会を持ちつつ「近くを狙う」ことにフォーカスできるようにジャックボールから近い順に 5 ポイント、4 ポイント、3 ポイントと設定する。

・チームで投げる順番や作戦を考えたり、自分の考えたことや気持ちを伝えたりできる。　【思・判・表】

「チーム」として活動すること、仲間意識や連係プレーなどを意識する経験を大事にしていきたい。必ず「サポート賞」は毎授業に表彰し、複雑な作戦を考えなくても「いいね！」と伝えるだけでもチームの一員として互いに活動できていることを伝えていく。作戦会議はショットごとに必要な場合も想定されるので教員による問いかけや声かけを必要に応じて行う。

・ルールを理解し、チームでボッチャの楽しさを分かち合うことができる。　【学】

導入回にボッチャを「知る」ことを目標に、実際の写真や映像、○×クイズなどを通してボッチャとはどのようなスポーツなのかを学ぶとともに、大前提である「ジャックボールを狙う。」を重点的に進める。このクイズはボッチャを始める際に必ず行うものとし、定着をねらう。

「ジャックボールにビッタビタで賞」「サポート賞」などと題し、各授業の最後に行う振り返りの時間に表彰を行う。それぞれの賞については各授業初めに目指すべき状況であるボールの位置関係がわかる写真を中心に説明する。ぞれぞれのショットをタブレット端末で撮影し、映像を見ながら振り返る。

９．単元（題材）の評価規準

A 知識･技能	B 思考･判断･表現	C 主体的に学習に取り組む態度
①ジャックボールや目標物の近くを狙って投げている。 ②「得点するための作戦」または「守るための作戦」などの作戦を意識している。	①チームメンバーとの作戦会議で意見交換に参加している。 ②どうすれば得点をとれるのか考えている。 ③どうすれば得点できるのか、相手チームが得点することを防ぐことができるか考えている。	①ゲームを楽しもうとしている。 ②チームメイトと協力して活動に参加している。

10. 単元（題材）の指導と評価の計画　（全 12 時間、本時は第７時）

次	時	学習内容	学習活動	指導上の留意点	評価規準(評価方法)
第一次	1	・オリエンテーション ・やってみよう！	○ボッチャとは ・基本的なルールを知る。 ○投げてみよう！ ・自分に合った投げ方を見つける。(上･下投げ、両手投げ、ランプ)	・モニターを用意する。 ・基本的な名称から作戦まで写真や映像を用いて説明する。 ・目印になりやすいコーンやフープを設置し、ジャックボールを意識しやすくする。	A①（行動観察） B①（行動観察） C①（行動観察）
	2 3 4	・各チーム練習 ・ゲーム形式	○各チーム練習 ・ジャックボールを狙う。	・話し合いやすい環境を作るため、学年ごとのチームにする。 ・「交互に投げる」「得点はジャックボールに近い順に得点」とルールを簡易にする。	A①(行動観察) B①(行動観察) C①(行動観察)
	5 6 7	・ミニゲーム大会	○スーパーボッチャ ○ボッチャで BINGO など ・狙ったところに投げる。 ・ルールを理解する。	・各種目のルールを簡易にする。 ・「第二次」に向けて、レクリエーションの中で楽しみながら投げ方や狙い方などを身につける。	A①(行動観察) B①②(行動観察) C①②(行動観察)
第二次	8 9	・実際のルールでゲームをする	○ルールを試合の中で学ぶ。 ○作戦の話し合いを行う。	・補助具の使い方やボール操作のコツを試合の中で説明をする。 ・得点ができるヒントをだす。	B②(記録・発表) C②(行動観察)
	１０ １１ １２	・リーグ戦	○各チームに分かれてゲーム ○投げ方の工夫、得点の方法を発表できる。	・チームでキャプテン、投げる順番、作戦を決める時間を設定する。 ・ルールの説明を随時行う。 ・振り返りの時間に記録や感想を発表する機会を設ける。	B③(記録・発表) C③(行動観察)

11. 本時の展開

(1) 本時の目標

・ミニゲーム大会で得点する作戦を考えたり、自分の気持ちを伝えたりできる。　【思・判・表】

・チームでボッチャの楽しさを分かち合うことができる。　【学】

(2) 本時の評価規準　※詳細に関しては別紙参照　（資料４）

・どうすれば得点できるのか、防ぐことができるのかを考えている。【思・判・表】(B②③)

・チームメイトや教員と一緒に楽しんだり協力して作戦に取り組んだりしている。【学】(C①②)

(3) 本時で扱う教材・教具

・ボッチャセット、笛、コーン、プロジェクター、スクリーン、スピーカー、iPad
ゼッケン３色（各色No.1～No.5）

(4) 児童生徒の実態と本時の目標　※詳細に関しては別紙参照　（資料５）

	児童生徒の実態	本時の目標	支援の手だて	評価規準
学習グループ１（あ～お 計５名）	・力加減や投げ方を状況に合わせて工夫できる。 ・作戦を考えて実行できる。 あ：アシスト車いすを使用している。 うお：車いすを使用しており、自操で進むことができる。 いえ：独歩で進むことができる。 いう：積極的にリーダーシップを取ることができる。 【関連する自立活動】 〇コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション	・作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えようとしている。 ・喜びは「次の試合も〇〇」、悔しさは「次の試合では〇〇」とチームメイトと共有しようとしている。	・ホワイトボードと磁石を使用することで、ボールの位置関係を把握し、作戦を考えたり伝えたりしやすいようにする。 ・教員が「次に投げるときはどうしたらいいかな？」とチーム内で会話をはじめるきっかけとなるような声かけを行う。	B① B② C①②
学習グループ２（か～く 計３名）	・狙いたい方向や、ポイントを「右の方」「ジャックボールがあるところ」などとそれぞれの方法で答えることができる。 か：車いすを使用している。 き：独歩で進むことができる。 く：車いすを使用しており、自操で進むことができる。 か：ランプを使用して、角度・方向を相談し、押し出すことができる。 きく：力強く投げることができる。	・ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしている。 ・チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをしようとしている。	・意見を共有できるように教員が「いまのはどう？」「どの方向を狙う？」などと場面に応じて声かけを行う。 ・狙いたいところまでの距離感をイメージできるように狙いたいポイントの近くから声かけを行う。	B① B② C①

	【関連する自立活動】 〇コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション 〇身体の動き ・作業に必要な動作と円滑な遂行			
学習グループ3 （け～さ 計3名）	・前方に投げることができる。 ・強さを加減するために上投げと下投げを使い分けることができる。 け：車いすを使用している。 投げる際にタイミングよく手を開くのが難しい。どの活動においても積極的に参加でき、教員の言葉かけで活動の切り替えができる。 こ：独歩で進むことができるが、転倒しないように見守りが必要。 座ったり立ったり投げ方を工夫しながら投げることができる。 さ：車いすを使用しており、自操で進むことができる。 狙いたい所を見ながら投げることができる。 【関連する自立活動】 〇コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション 〇身体の動き ・姿勢と運動、動作の基本的技能	・ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりしようとしている。 ・チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えようとしている。	・自然と狙うポイントに目線が向くようにポイントの近くから声かけをする。 ・手放すタイミングや、勢いよく投げることができるように「せーのっ！」「〇〇さんのースーパーショット！」などとタイミングを計りやすい声かけを行う。	B① C①

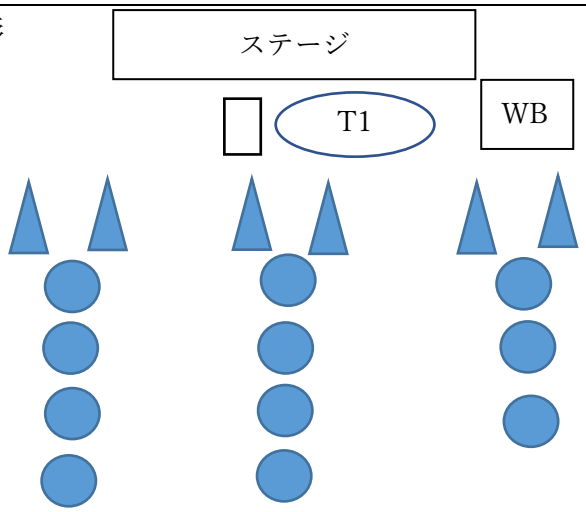
(5) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
５分 導 入	●集合、整列、挨拶 ①舞台に向かって整列 ②学年ごとに１列縦隊 ●出席確認 ●本時の説明 ①流れの説明	・集合時に可能な範囲で各生徒の様子を共有しておく。 ・整列時に目印となるコーンを置く。 ・挨拶する生徒は輪番。【今回は　】 ・一人ひとりの表情や返事の様子を確認しながら行う。 ・スクリーンに本時の予定を映しておく。	
１０ 分 展 開 １	●茨木体操 ●準備体操 ①下半身　②肩回り ③首回り　④手首	・スクリーンに映して行う。 ・本時で使う部位を意識しながら行えるように「ボールをさわるときに〇〇を使うよ。」と言葉かけを行う。 ・それぞれの可動域を改めて確認する。	
１０ 分 休 憩	●休憩 ①水分補給、生活指導を行う。	・タイマーをスクリーンに映し、時間を把握できるようにしておく。 ・巡回しながら様子を確認する。	
２０ 分 展 開 ２	●振り返り ●今回のポイント ●ゲーム（スーパーボッチャ） ●片付け	・簡単なクイズで振り返り ・今回の「〇〇賞」について ・3 チームに分かれてボッチャのゲームをする。ジャックボールは２つ配置。 ・順に投げる。 ・ジャックボールに近い順にポイント。 １番目→４pt ２番目→３pt ３番目→２pt ４番目→１pt ・チームごとに使用したコートのボッチャセットやコーンを片付ける。	B①② （行動観察） C①② （行動観察）

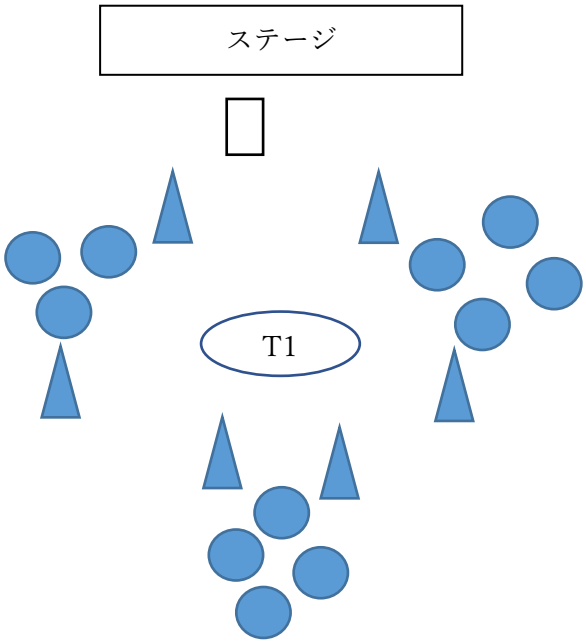
５分 ま と め	●整理体操 ①肩回り、手首、首を中心に行う。 ●生徒の体調確認 ●振り返り ・「〇〇賞」の発表 ①順に３名を映像と共に発表 ②受賞生徒を称賛、生徒からひと言 ●挨拶	・使用した部位を意識できるように実際にでたプレーを伝えながら行う。 ・怪我や体調が悪い生徒がいないか確認する。 ・本時の目標と活動内容、実際の様子などを関連付けて伝える。 ・結果に関わらずチームを応援できた生徒、スーパープレーをした生徒を「〇〇賞」「MVP」として発表する。 ・MVP として選出された生徒と挨拶する。	

(6) 教室配置等（正面を上にして、児童生徒や教員の位置、教材・教具の配置等を示す）

〇集合隊形



〇ゲーム



【資料４】評価規準・基準一覧

●学習グループごとの評価基準

本時の目標	本時の評価規準	学習グループ	評価基準
・どうすれば得点をとれるのか考えることができている。【思・判・表】	・ミニゲーム大会で得点する作戦を考えたり、自分の気持ちを伝えたりできる。【思・判・表】	1	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えようとしている。
		2	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしていう。
		3	ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりしようとしている。
・ゲームを楽しもうとしている。【学】	・チームでボッチャの楽しさを分かち合うことができる。【学】	1	喜びは「次の試合も〇〇」、悔しさは「次の試合では〇〇」とチームメイトと共有しようとしている。
		2	チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをしようとしている。
		3	チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えようとしている。

●学習グループ内の評価基準

学習グループ及び、学習グループの評価基準			学習グループ内の評価基準
1	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えようとしている。	A	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えることができる。
		B	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えようとしている。
		C	作戦ボードや記録用紙に考えたことを整理し、伝えることは難しい。
2	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしている。	A	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えることができた。
		B	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えようとしている。
		C	ジャックボールとチームボールの位置を見て得点する方法を考えることは難しい。
3	ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりしようとしている。	A	ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりすることができる。
		B	ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりしようとしている。
		C	ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりすることは難しい。
学習グループ及び、学習グループの評価基準			学習グループ内の評価基準
1	喜びは「次の試合も〇〇」、悔しさは「次の試合では〇〇」とチームメイトと共有しようとしている。	A	喜びは「次の試合も〇〇」、悔しさは「次の試合では〇〇」とチームメイトと共有できている。
		B	喜びは「次の試合も〇〇」、悔しさは「次の試合では〇〇」とチームメイトと共有しようとしている。
		C	喜びは「次の試合も〇〇」、悔しさは「次の試合では〇〇」とチームメイトと共有することが難しい。
2	チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをしようとしている。	A	チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどができている。
		B	チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをしようとしている。
		C	チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをすることは難しい。
3	チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えようとしている。	A	チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えることができている。
		B	チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えようとしている。
		C	チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えることは難しい。

【資料５】実態把握一覧

生徒	移動方法	実態（生活）	実態（本時）	コミュニケーション	本時の目標	支援・手立て	関連する自立活動	活動グループ	配慮事項
あ	・車いす （アシスト付） ・自操（要見守り）	・生徒会活動に取り組み、少しずつ積極的な面が見られてきている。	・力加減、投げ方を工夫できる・作戦を考えて実行することができる。	相手の立場や状況・状態等を気遣いながら、会話ややり取りをすることができる。	【ミニゲーム大会で得点する作戦を考えたり、自分の気持ちを伝えたりできる。】 ・考えた作戦を伝えたり投げたりできる。 【チームでボッチャの楽しさを分かち合うことができる。】 ・喜びは「次の試合も〇〇」、悔しさは「次の試合では〇〇」とチームメイトと共有しようとしている。	・ホワイトボードと磁石を使用することで、ボールの位置関係を把握し、作戦を考えたり伝えたりしやすいようにする。 ・教員が「次に投げるときはどうしたらいいかな？」とチーム内で会話をはじめるきっかけとなるような声かけを行う。	〇コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション	1	心拍注意
い	・独歩 （要見守り）	運動することが好きで、野球、ボッチャが特に好き。	ボッチャ同好会での活動をしており、投球・作戦に自信を持って活動できる。	文章の中で助詞が抜けることがあり、正しい日本語にならないことが多い。				1	iPadを活用して会話
う	・車いす ・自操	・できないことがあるときにアピールはできるが、助けを求めることは難しい。	・積極的にリーダーシップを取ろうとする。ボッチャは経験が長くよくできる。	・日常会話は円滑にできる。 ・順序だてて話すことは得意ではない。				1	
え	・独歩 （要見守り）	物の置き忘れ、なくしものが多い。周りに合わせて行動ができる。	・力加減、投げ方を工夫することができる・作戦を考えて実行することができる。	言葉でのコミュニケーションが可能であり、場面に応じた言葉遣いができる。				1	装具注意
お	・車いす	・情緒は非常に安定しており、思いがけない行動をとることは滅多にない。	・車いすの横から上半身を目一杯動かして投球できる。	・難聴のため、音声言語はほぼわからない。口話により、簡単な会話は理解できる。				1	手話・指文字
か	・車いす ・電動	学校生活に慣れ、活動や他者とのかかわりを楽しんでいる。	・ランプを使用して、角度・方向を教員と相談し、押し出すことができる。	・話している内容は理解できる。分からない問題は少し考えて固まってしまう。	【ミニゲーム大会で得点する作戦を考えたり、自分の気持ちを伝えたりできる。】 ・教員と相談しながら、作戦に適した方向や位置を定めることができる。 【チームでボッチャの楽しさを分かち合うことができる。】 ・チームメイトへの前向きな言葉と共に拍手や適切なハイタッチなどをしようとしている。	・意見を共有できるように教員が「いまのはどう？」「どの方向を狙う？」などと場面に応じて声かけを行う。 ・狙いたいところまでの距離感をイメージできるように狙いたいポイントの近くから声かけを行う。	〇コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション 〇身体の動き ・作業に必要な動作と円滑な遂行	2	iPadを活用して会話
き	・独歩 （要見守り）	・自分から挨拶ができる。 ・人と関わること、話すことが好き。	・下投げで上手に投げることができるが力加減は難しい。	・話す言葉が不明瞭。 ・聞いている話に理解がついていけないことがある。				2	
く	・車いす ・自操（要見守り）	慣れない人に関わりづらい時もある。興味あることには集中して取り組む。	・力強く投げることができる。 ・狙うことは難しい。	・ことばによる意思表示、指示理解ができる。				2	車いすの足元注意
け	・車いす ・要移動支援	・分け隔てなく他者と関わることが好き。衝動的に攻撃的になることあり。	・投げる際にタイミングよく手を開くのが難しい。	関わりを覚えて、繰り返すこともできる。・初対面の人でもフレンドリーに接する。	【ミニゲーム大会で得点する作戦を考えたり、自分の気持ちを伝えたりできる。】 ・ジャックボールの位置を考えることで、どの方向にボールを投げると得点できるのか考えたり伝えたりしようとしている。 【チームでボッチャの楽しさを分かち合うことができる。】 ・チームメイトへ「いいね！」「よかったね！」「がんばれ！」と前向きな言葉を伝えようとしている。	・自然と狙うポイントに目線が向くようにポイントの近くから声かけをする。 ・手放すタイミングや、勢いよく投げることができるように「せーのっ！」「〇〇さんのースーパーショット！」などとタイミングを計りやすい声かけを行う。	〇コミュニケーション ・状況に応じたコミュニケーション 〇身体の動き ・姿勢と運動、動作の基本的技能	3	右手配慮
こ	・独歩 （歩行介助・見守り必須）	・わからないこと、苦手な時間、不安になったり気持ちが不安定になることがある。	・座る、立ちながらを選んで投げることができる。 ・狙い所を見つつできる。	次に行うことなどを言葉の指示で理解でき、言葉で表すこともできる。				3	転倒厳禁
さ	・車いす ・ウォーカー	簡単な要求は伝えれるが、その理由など詳細なところまでは伝えられない。	・力強く投げることができる。 ・狙い所を見つつできる。	・積極的に関わることができる。発語は鮮明ではなく、指文字や手話で表現する。				3	手話・指文字